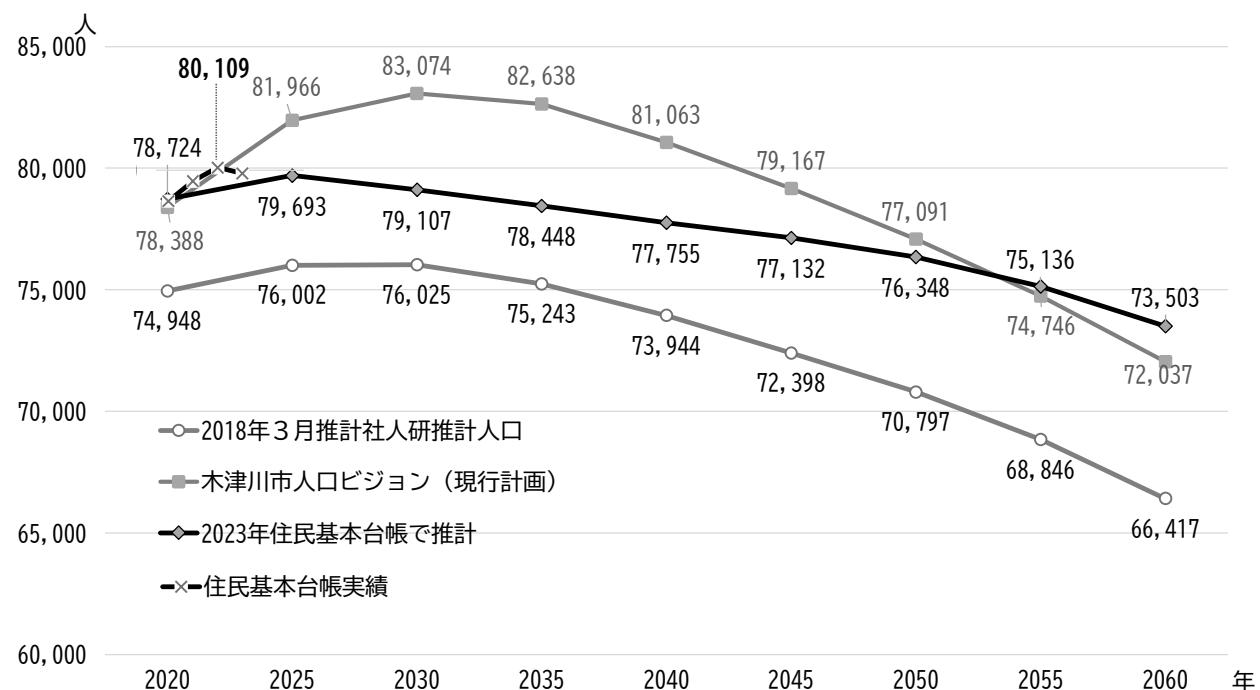


## 木津川市将来人口推計（現状のまま推移の場合 暫定値）

2020 年以降も開発住宅地への入居が進み、2022 年 12 月には 80,109 人となり、2023 年 4 月には 8 万人を下回ったものの横ばい傾向にある。

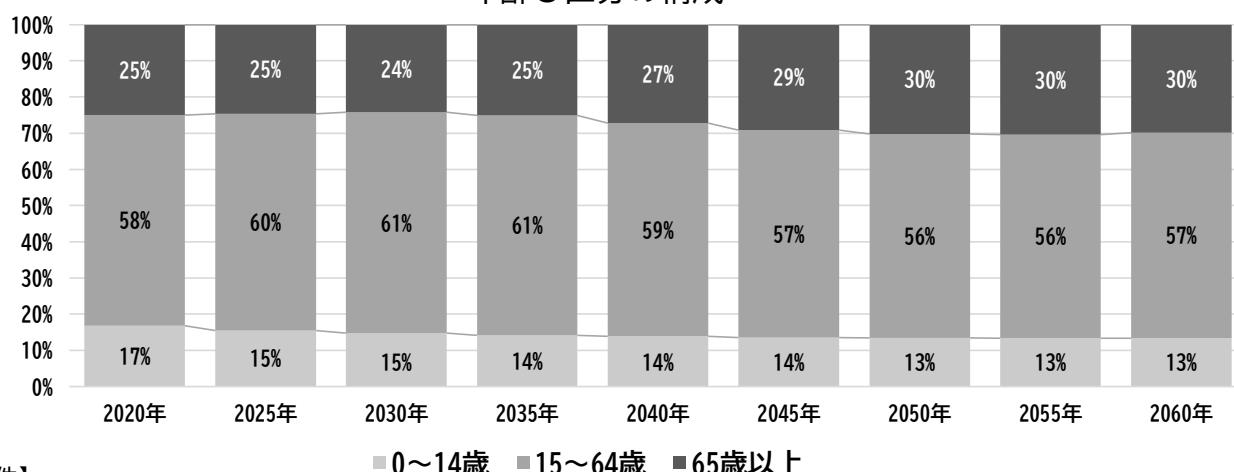
今後は、緩やかに減少し、高齢化率も徐々に上昇することが予測される。

木津川市将来人口推計（2023 年基準）



※現行計画の人口ビジョン：合計特殊出生率を 2020 年から 2.07 まで段階的に上昇させたもの。

年齢 3 区分の構成



【推計条件】

基準年：2023 年（住民基本台帳（5 月））

移動率：住民基本台帳 2013 年⇒2018 年⇒2023 年 2 期間の 5 歳階級コードの移動率を算出し推計。

但し、上記期間の 5,000 m<sup>2</sup>以上の住宅開発を除く（10 開発が該当）。また、2022 年城山台地区に大黒天物産関西 RM センターの社員寮に外国人就労者の入居が約 300 人あったため、特異な変化として除いている。更に、城山台が計画人口の 92%まで居住しているため、他地区実績より最終を 95%までとして残りのおよそ 340 人を 2030 年までに加えた。

出生率：子ども女性比 0.21（2023 年の実績値が一定とした。合計特殊出生率換算おおよそ 1.5）

0~4 歳性比：107.32（女性 100 に対する男性）

生存率：H30 年社人研推計準拠（2020 年から 5 年間分を 2023 年から 5 年毎にスライド）

結果の表示：既存の推計結果と比較するために、推計年度をあわせるよう今回の推計値は 5 年間の間に直線回帰で算出。

上記条件で設定した移動率は、25~29 歳⇒30~34 歳、30~34 歳⇒35~39 歳、40~44 歳⇒45~50 歳になる間に転入超過であり、その傾向が 2060 年まで続く推計となっている。5,000 m<sup>2</sup>未満住宅開発分が今後減少していく場合は、この世代の転入超過の幅は弱まり、人口減少、高齢化が急速に進むことが予測される。